

# 夏休みの子どもさんたちと ミャンマーに行こう！

7月25日発 → 29日早朝帰国

概算予算17万前後、  
18歳未満は本部より3万円補助します。

日本ミャンマー豊友会総会のご案内

5月26日(土) 午前11時より

場所 邦和セミナープラザ(名古屋市港区港栄1-8-23 地下鉄港区役所下車) 電話 052-654-3321

## JAMAHA支援方法のご案内

特定非営利活動法人日本ミャンマー豊友会では、  
当会の理念と活動に賛同いただき、  
ご支援いただける方法で参加を募っています。

### 参加する

毎年2回(3月と11月)に開催していますスタディーツアーにご参加いただけます。

### 寄付する

ミャンマーの子供達が将来豊かな人生を歩むためには教育が重要です。継続できるご支援が不可欠です。  
皆様のご協力を御願います。

奨学金の提供 あなたも“あしなが”おじさんになりませんか？

保育園の寄付 保育園に寄付者の写真が飾られます。  
その後の交流も継続していただき、子供達の成長を楽しみにしていただけます。

### 会員になる

会員としてJAMAHAを深く関わりながら、NPOの運営を継続的に支えてくださる個人、企業、団体様を必要としています。

#### ●年会費

特別会員 100,000円 / 1口	正会員 10,000円 / 1口	賛助会員 5,000円 / 1口	学生会員 1,000円 / 1口
-----------------------	---------------------	---------------------	---------------------

### 寄付・ご入会の振込口座

振込先 ゆうちよ銀行 振替口座 0082-5-135506 トクビ)ニホンミャンマーホウユウカイ  
三菱UFJ銀行 中村公園前支店 普通 0027522 トクビ)ニホンミャンマーホウユウカイ

ホームページに記載しております。詳しくはホームページもしくはリーフレットをご覧ください。

<http://www.hoyukai.com/myanmar/admission.html>



総会NPO法人 日本ミャンマー豊友会  
〒442-0826 愛知県豊川市牛久保町城下73番地(大木産業株式会社内)  
Tel. 0533-85-3358 Fax. 0533-85-4986 e-mail: jamahajapan@gmail.com  
NO.35/A.Boe Yar Zar Street, Kyaukkone, Yankin Township, Yangon, Myanmar  
Tel. (95)-1-571066 fax.(95)-1-571066  
<http://www.hoyukai.com/myanmar>  
Facebook: <https://www.facebook.com/JAMAHA.jp>



# JAMAHA NEWS

JAPAN & MYANMAR ASPIRATION HOYU ASSOCIATION  
2018.4 vol.9 日本ミャンマー豊友会

ミャンマーと日本の子供たちの未来のために

## 保育園(シャン州サティ村)の開所式に参加して

2018年3月27日-3月28日  
玉井 満代・聖美・優妃

3月27日  
シャン州サティ村にて、保育園の開所式に参加。

午前6時30分  
ヤンゴンのホテルから空港へ。

午前9時  
シャン州のヘーホー空港到着。チャーターしたバスでガイド兼通訳のビューさんとともにサティ村に向かう。空港からしばらくは道も舗装され、両側にもレンガづくりの民家やバイクに乗る人々が散見されたが、2時間後くらいから荒野になる。道も荒れ気味ななか、予定を1時間押し、3時間かけて村に到着。

午後0時～  
村人たちはスマートフォンで撮影したり、手を振ったりして歓迎してくれた。学校の中にカットしたフルーツやスコーン、サラダのようなものが用意されていた。ガイドのビューさんにまなものは日本人には危険だから食べないようにと言われて、スコーンのみいた。日本人の口にも合うスコーンだった。同じテーブルにはその学校に赴任してきた先生(女性)、隣村の私立学校の英語の先生(男性)がいらした。二人とも英語が話せるため、説明役も兼ねて同席してくれた模様。

村の大勢の人がスマートフォンを持っていたが、インターネットや電気は通っておらず、限られた場所で発電機を使って発電しているらしい。充電は主にソーラーで、スマートフォンの使用用途は写真撮影や音楽とのこと。

学校のトイレはかなり衛生状況が悪い。日本の和式便所のような便器で、使用後は横の溝のところに溜めてある水を取っ手付きの風呂桶のようなもので流す。水も淀んでいた。

午後2時～  
村人たちが両側に並び、音楽を奏でたりして歓迎してくれる中を歩いて保育園に向かった。保育園の中を見学。寄付者の玉井満代の写真が飾られていた。机や椅子は揃ってはいないがいくつかあり、これから集めるらしい。村で一番きれいなトイレを設置できた、と紹介してもらった。

午後2時50分～  
開所式スタート。保育園横にテントを張り椅子を並べた開所式の会場ができていた。村人たちが集まって座っていた。

JAMAHAの近藤理事長、玉井がスピーチ。社会福祉長、教育長、バオ族の代表、村長がスピーチ。教育施設が建てられたときは、必ず政府から定められた、地区ごとの教育長や社会福祉長が参加しなければならぬらしい。(ビューさん談)

バオ族はつい20年ほど前まで、ミャンマー政府と内戦を繰り返していたが、今は武器を捨て、多民族国家ミャンマーの発展に尽くしているという話しが特に興味深かった。テレビや書籍、インターネットで世界の紛争を知ることが可能な現代でも、当事者たちの声を生で聞く機会はなかなかないものということに気付かされた。

ピアノカ2台、12色色鉛筆24セット、お菓子を寄贈。  
開所式後、村の先生たちを集めてそろばんの授業を行った。大きな教師用そろばん1丁、23桁そろばんを25丁持っていったが、一人1台にはまだ足りなかった。先生方はかなり意欲的で、初めてそろばんを見て、そろばんが何かもわからないにもかかわらず、10までの数の足し引きを短い時間でマスターした。そろばん全てとテキストを寄贈し、次回訪問するまでにテキストを勉強してもらうことを玉井と約束。皆笑顔で約束してくれた。建物を寄贈するだけでなく、自立のための教育支援をするにはどうすればよいのか考え続けたい。

ヘーホー空港からヤンゴンの空港へ戻る。飛行機が自由席というまさかな体験。小さな空港の建物から歩いて飛行機まで向かい、列に並んだ。

3月28日  
孤児院の訪問。

午前中  
寺院が経営する女子専門孤児院(Buddha Date School)を訪問。数年前に栃木の僧侶の方が建物を寄贈してくださったそう。衛生的なトイレは歌手の一青窈さんが寄贈してくださったと自慢していた。トイレの衛生面はやはり重要事項なのかもしれない。

昨年日本人の方のボランティアで裁縫を習ったそうで、作品を見せてもらった。ショルダーバッグやポーチ、手提げ袋が、思い思いの布で作られていた。とてもかわいいので数点購入。最初、寺院の人は子どもたちの作ったものだけあげると言ってくださったが、かなり安い値段ではあるが購入させてもらった。自分の作品が「商品」になると実感することは自信にもなるし、手に職をつけることに意欲的になるはずだ。これも一種の支援になると信じたい。

午後  
日本人の方が始めたという ヤンゴン市内の“Dream Train”を訪問。男女数百名が暮らすこの孤児院は、日本の看護師の方が2年派遣され、子どもたちと暮らしている。事務室のような場所にはさまざまな日系企業の訪問予定や、日本人からの手紙、写真が見られた。

女の子たちによるチアリーディングの練習を見学。翌日の大会応援のためとか。日本人のチアリーディング経験者の方が笛を吹いてタイミングを計り、かなり本格的。

派遣された日本人看護師の方に話を何うと、悩みは卒業後の就職や進学だそう。希望すれば塾のような施設に通うこともできる(?)が、実際の大学進学率は悪い。町の学校だけでは到底足りないらしい。また、大学進学できなかった子たちの就職先にも不安がある。孤児院を卒業しなければならないが、故郷の村に帰るか、施設に近い就職先が望ましいのだから。卒業後も連絡を取ったり、何かあれば手助けするなど手厚くサポートがあるようだ。



## 第28回ミャンマースタディツアーレポート

2018年3月24日～3月30日

日本ミャンマー豊友会 第28回スタディツアースケジュールは下記のような日程で挙行いたしました。全行程3名と後半組4名が合流し、ガイドさんを入れて8名のツアーでいつもより少人数となりました。

24日の初日はハートメディカルグループのT社長さんたち3名と合同食事会で始まり、ニットウェイさんをお呼びして日本語教室を飾る日本の人形藤娘や兜、日本の小学生用国語、漢和辞典(Aさん提供)をプレゼントさせていただきました。

25日はバゴー観光を兼ねて日本の農業用機械の中古を扱っている工場の視察も行いました。運転訓練からメンテナンスまで一式いくらという設定でしたが、想定した贈呈先のお相手に、生産性向上という概念がなく？熱意が感じられないため橋渡しを中断しました。夜はご一緒したAさんの友人の娘さんと、現地に根付いてお土産のクッキーの販売店を展開している、“S・夢”さんの夢をお聞きしながらタイ料理店で会食。

26日はバガン近くのバコックというところに日本企業として初めて進出した四国の手袋工場(孤児の就職受け入れ先として想定)と、オイスカの現地農事試験場(S・京子さんの最初の赴任地)、それに政府系(国境省管轄下)の職業訓練所の見学をいたしました。規模の大小はあるのですが、全国に40か所以上あるそうです。併せて福祉省関係でも4,50か処あるそうで、ミッチーナを訪問した7年前とは大違いで、政権交代後?急速に拠点数が拡がっていま



す。ちなみに訪問した訓練所は縫製コース、編み物、理美容コース、PCコース等があるということです。午後は観光、夜はマリオンネット人形劇の鑑賞で、ジャン料理をいただきました。

27日は後半組のドネイタート親子の3人とヘイホー空港で落ち合い、サッティ村の幼稚園の開園式に臨みました。ツアーの参加者の方はご想像がたくてでしょうが、例年にも増しての大歓迎を受け、鯉のぼり、紙芝居、ピアノ、サッカーボールの4点セットと皆さんがおもちゃやお菓子や文具を贈呈しました。特筆すべきはTさんに臨時のそろばん教室を開設していただき約1時間にわたって学習指導してもらいました。現地の先生方も大変熱心に学ばれるものですから、超大型の先生用そろばんと普通の大きさのそろばんも20数個おいてまいりました。次回までに必ず生徒さんに教えるというお約束付きです。

28日はヤンゴンに戻り、尼さんが経営しておいでになる孤児院、尼僧院を見学後(ここで昨年インパール方面に行ったときのガイドのヤンさんがボランティアできていて再会)、ドリームトレインに移

動。日本語教室開設の希望の有無や日本留学、あるいは日本企業への就職支度など話し合うも、ペンディングとなりました。夜は空港から5分、渋滞のおそれもない中華料理店でウインミン親子と工場長をお迎えして解団式をおこない、全員をANAにお見送りいたしました。

29日は近藤ひとり残り、yさんの通訳、御協力でトンテの孤児院に向かい、給付型の奨学金や職業訓練、日本語教室の開設希望などを院長のお坊様にお尋ねしました。お坊様は教育には大変熱心(今年のセイダン試験は110人受験、水祭後4月12日に合否の発表予定。昨年は10人が合格してそのうち半数近くが通信大学に進学)ではあるが、就職の世話にはさほど注力されていないように感じられました。特に目の届かない州外に行くのは反対のご様子。孤児の就職を引き受けてもいいという孤児院近くの水引製造工場の現場も見学。夕方ニットウェイさんの新事務所兼日本語教室を見学。担当でご面倒をかけているナンヤミンさんと面談。ANA便で帰るも成田羽田の乗り継ぎに失敗し、帰宅は3時となる。



## ミャンマー連邦共和国シャン州 ニャンピン村保育園の開園式

2017年10月25日



キャブ株式会社  
辻 博之様

私は仕事柄(Tシャツなどの企画・製造・卸という業態に従事)東アジア・東南アジアの各国へしばしば訪れます。ミャンマーには過去7-8回入国していますが、そのほとんどは最大都市ヤンゴンとその郊外でのビジネスに関わる滞在です。もちろんビジネスの相手もビルマ人や華僑系または、ミャンマーへ資本投下している中国人の方たちです。

ミャンマー最大都市ヤンゴンは訪問の度に変化・進化しており、日本からの進出企業も増加しています。それにとともに在留邦人も2300人と近年大幅増(平成29年のデータ)で観光客を含めると毎日一万人弱の日本人がミャンマーに滞在しているのではと推察します。

そんなわけで、10余年前初めて訪問した際には、ヤンゴン国際空港はバスの待合所のようなでしたが、日本食レストランも殆どありませんでしたが、今やずいぶん和食処も増えて、出張者も滞在者も助かっています。生活インフラも以前とは隔世の観があり、ヤンゴンであれば多少のお金があればそこそこ快適に暮らせます。

一方シャン州へは、ミャンマー豊友会のスタディツアーで6年ほど前に一度行ったきりの場所です。少数民族の暮らす山がちな田舎で、前回は保育園の開園式参加で訪れました。その村に至る険しさが記憶に残っています。途中から道が細く、悪路であるため、バスは使えずトラックの荷台に乗り換えます。悪路30分をトラックの荷台で飛び跳ねながら耐えると、そこから先は徒歩でしか進めません。暫く山道をかき分けるように進むと眼前に小高い丘が広がり、そこで老若男女村民総出で出迎えてくれる光景が眼前に広がりました。道中の苦勞のご褒美は、純真でキラキラとした子供たちの溢れんばかりの笑顔でした。

そんな経験をしているので、今回もかなりの覚悟で臨みました。ところが今回のニャンピン村は、盆地といえよいか、むろん山の中ではありませんが、平地でもある村で保育園までバスでたいそう快適にたどりつくことができ、拍子抜けするくらいでした。この村がたまたまだったのかは不明ですが、中央政府か

らあまり手厚い援助を受けられないシャン州の村にも着実にモータリゼーションの波が押し寄せているようです。

開園式に当たっては、毎度のことながら、村民全員、小中学生は制服、村民の方は民族衣装を着飾って総出の大歓迎です。州当局のお役人(多分ビルマ人)や村の偉い人の挨拶やらに引き続き私も舞台上で祝いの挨拶をさせていただきます。その後開園式は、小中学生の成績優秀者表彰やら、同じく芸会のような舞踊りの披露やらでにぎやかに過ぎていきました。

実際の保育園の園舎も見学しましたが、壁に私の肖像写真がかかっている、なかなか気恥ずかしいものがありました。

たいしたことはして差し上げられませんが、あの保育園で子供たちがすくすくと成長してくれること、子供たちの両親が安心して働けて、暮らしが安定すること、あの子たちの中から村や町の将来のリーダーが排出されることを願ってやみません。

